白山ふるさと文学賞

第十五回　白山市ジュニア文芸賞　受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」または「家族へのおもい」〉

小学生5・6年の部　優秀賞

「おばあちゃんのことが」

朝日小学校六年

北野（きたの）　真白（ましろ）

あなたは、おばあちゃんのことが好きですか？「おばあちゃん」と聞くと、やさしい人を思い浮かべる人が多いかも知れません。でも、私は正直、おばあちゃんのことが少し苦手でした。

私のおばあちゃんは、何でも「こうした方がいい」と決めてきて、お腹がいっぱいなのにおかしをすすめたり、私の意見を聞く前に話が決まったりすることがありました。それに加えて、私が物心がついたころには体も耳も弱くなっていて、いっしょに遊ぶことも話すこともあまりできなくなっていました。だから、小さいころの私のおばあちゃんの印象は、あまりよくありませんでした。ある日おばあちゃんがおかしを持って二階の私の部屋に届けてくれました。でも、そのときの私はたのんでもないのに持ってこられるのがおせっかいに感じてしまい、一人になりたいときでもあって、おばあちゃんをむりやり追いかえしてしまいました。今思うとおばあちゃんにはもうしわけないことをしたと思います。でも、そのときはおかしを食べたい気分ではなく、おばあちゃんも足こしが弱いのに急な階段を登ってきたのが心配で、けっきょくおかしももらわずに返しました。なんで私におかしをあげようとわざわざ急な階段を登ってまでとどけにきたのか疑問でした。でも、今なら少し、分かる気がします。成長していくにつれ、私の心も変化していきました。

おばあちゃんは、私のことを思って行動してくれていたんだなと、今では思います。おかしを持ってきてくれたのも、きっと、「おなかすいてないかな？」と、私のことを気にかけて心配してくれた、おばあちゃんなりのやさしさなんだと思います。そのやさしさを受けとめ切れなかった自分に、後悔しています。昔の何も気づいていなかった自分に、教えてあげたいです。

今、おばあちゃんは老人ホームにいます。お母さんとお父さんが週1回、服などの必要な物を届けたり、使った物や洗う物などをもらったりしに行きます。私もたまについていくことがありますが、最近はおばあちゃんはねていることが多く、話す期会もあまりありません。それに、前より耳も体も悪くなって最近では私のことも忘れてしまいました。

私のことだけじゃなく、私のお母さんのことも、おばあちゃんの息子のお父さんのことも、おばあちゃんはおぼえていません。

でも、最近お母さんがおばあちゃんに会いに行ったとき、春まつりの動画を見せたそうです。私がみこしをかついで、神社の階段から降りてくる動画です。すると、その動画を見たおばあちゃんは、いつもはぼーっとしていて話しかけてもあまり反応がないのに、そのときは、にっこりとほほえんでくれたそうです。思い出がいっぱいつまった神社。この動画を見て、なにか大切なことを思い出したのかも知れません。私や、家族、関わっていた人たちみんなのことを見て、思い出せなくても、きっと心のおくでは大事なことを覚えているのかなと思いました。私の動画を見ておばあちゃんが笑ってくれたことがうれしかったです。重いみこしをかついでいたときはとても大変だったけど、おばあちゃんが少しでも大切なことを思い出せたなら、笑ってくれたなら、いっしょうけんめいがんばってよかったな、と思います。

今までおばあちゃんとくらしてきて、話してきて、いろんなことがありました。楽しかったことも、いやだったことも、うれしかったことも、悲しかったことも。おばあちゃんのとなりでいろいろな思いをしてきたけど、思い返せば全部大切で、かけがえのない大事な思い出です。おばあちゃんがくれたたくさんの思い出で、私はここまで成長できました。おばあちゃんが私に、たくさんの感情を、愛をくれたから私は今こうやって、大切な思い出だと思ってふり返られるようになりました。もう、おばあちゃんといっしょに居られる時間が限られています。だから、私はおばあちゃんと会える時間を少しでも大切にします。おばあちゃんが私のために動いたり、言ったりしてくれたことを、恩返しできるように、これからも学校のことも、生活のこともが

んばって、むねを張っておばあちゃんに「がんばったよ。」と伝えられるようになりたいです。そんな私のことを大事に思ってくれたやさしいおばあちゃんのことが、大好きです。

